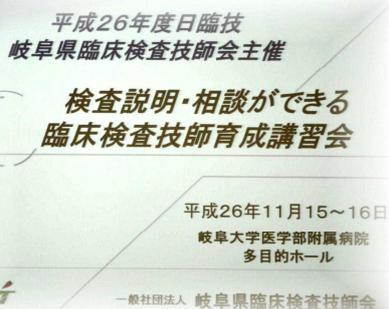


特集

平成26年度 検査説明・相談のできる 臨床検査技師育成講習会



企画担当 岐阜中央病院 森さゆり

立冬も過ぎ、肌寒い晴れた日に、平成26年度 検査説明・相談のできる臨床検査技師育成講習会が岐阜大学医学部附属病院 多目的ホールにて開催されました。県内より次の業務拡大のリーダーとなる臨床検査技師が33名参加されました。

この企画は平成25年12月6日～8日に東京で開催された各都道府県企画担当者講習会よりスタートしました。それからほぼ1年、岐阜大学医学部附属病院、岐臨技学術、臨床検査総合部門の積極的な協力のもと準備が進みました。講習会参加費1万円を所属施設に受け入れてもらうことから始まり、どのようにして受講生の皆様に知識・技術の習得していただくか、そして次の課題はこの講習会は開催が目的ではなく、ここから始まる臨床検査技師の地位向上の実績作りのためのActionにしていこうということです。

講習会のカリキュラムは基本的には全国統一となっています。そのため限られた予算と時間の中での開催となりました。1日目の午前中は長時間のビデオ講習で、宮島会長の「臨床検査技師が検査説明・相談に取り組む意義」から始まり、日本医師会からの当講習会の目的と必要性、さらに、検査説明・相談の基本となった長野県臨床検査技師会の取り組み、その後、患者と接するために必要となる「接遇の基礎」と週末の疲れている早朝からのビデオ学習にも関わらず、全員が聞き入っていました。

午後からは、日本マナー協会認定講師のフリーアナウンサーの宇野悦加先生とともに、身体で覚える接遇講習が行われました。最初は静かなホールでしたが、課題に積極的に取り組む参加者は時間も忘れるほど真剣に取り組んでいました。→



11月15日(土)
15:30~17:00
三輪 峰子 先生

→1日目の締めは、岐阜大学医学部附属病院 三輪峰子先生による患者心理。病気の患者さんの心理状態での声掛けの違い。理論的に理解できていれば、感情的にもならず、言葉の選択も変わってくるのは、医療人としての匠の様な講演でした。

前日の宿題を不安に2日目が始まりました。岐阜大学医学部 伊藤弘康先生の「検査説明の実際」は医師が患者さんに検査の説明をする実際の手順や声掛けの仕方、さらに細やかな配慮など、臨床検査技師が今まで学ぶことのなかった分野です。不安な気持ちの患者さんに寄り添い、安心できる説明のビデオ実例を見ながら詳しく解説頂きました。

続いての岐阜大学医学部の白上洋平先生の「R-CPC」、症例をもとに全員が病態を考えていきます。緊張感と真剣に検査結果をみる参加者で緊迫した空気が漂いました。昼食でリラックスできたのも、つかの間、いよいよ模擬演習です。参加者が「模擬患者」「模擬説明者」になって、全員の前で検査説明を行いました。その後、評価をして伊藤先生にアドバイスや指導を頂きました。

講習会の締めは、愛知医科大学病院 岸孝彦技師長の実例報告です。臨床検査技師にできる検査説明の実例を紹介して頂きました。講演後も参加者より多くの質問があり、2日間のまとめの講演となりました。

この企画は3年継続し、会員の1割(岐臨技では80人程度)の受講が目標です。来年度は6月20日(土)21日(日)を開催予定に準備を始めています。また、参加者のアンケートには、全員より「参加して良かった」との回答と、多くの感想や意見を頂き、私自身ほっとしつつ、新たな責任を感じています。この貴重なアンケートをもとに、今までに無い内容で、参加者の身に付く「検査説明・説明のできる講習会」になるようにと考えています。是非、県内で実際に検査説明等をされている施設の皆様にはご協力をお願いします。ご講演いただけそうな先生がみえましたら、企画担当者までご推薦ください。

岐臨技会員の皆様、一緒に「新たな取り組みが私たち臨床検査技師にもたらすもの」に向かっていきましょう！



11月15日(土) 13:30~15:20
宇野 悦加 先生



11月16日(日)
9:00~10:30
伊藤 弘康 先生

検査説明・相談のできる講習会に参加して

大垣徳洲会病院 清水 康之

今回、講習会に参加して、検査説明を行う為には検査の意義や検査結果の解釈などの知識以外にも接遇などのコミュニケーション能力や検査説明の技術が必要で、それらに対応できるように幅広い内容の講義が行われました。

他にも他施設の活動内容や、他県のこのような講習会の内容を聞くことができ、とても勉強になりました。講習会の最後で模擬演習があり、自分が皆さんの前でいったときは緊張してしまいうまく説明を出来ない所がありました。何とか終わる事が出来ました。しかし、しんどい思いをして医療機関に来て説明される患者さんの立場で考えると何とか終わったというので良かったのかと自分の未熟さに気付きました。検査説明をするにあたって自己の研鑽はもちろんですがこのような講習会が活発に行われるようになれば参加者同士の交流や情報交換も多くなり、結果としてチーム医療としての検査技師の存在感は上がり、患者さんの診断、治療に貢献できると思えました。



11月16日(日) 10:40~12:10
白上 洋平 先生

参加者の声

MessengerBoy

模擬演習を体験して～患者の立場から～

岐阜市民病院 後藤 美香

今回の講習会には上司の命令で参加しました。新たな業務として検査説明・相談をしていこうということで、どんなことをするのか、私にできるのか、そして何より「めんどくさいなあ」と思っていました。2日間にわたる受講の仕上げともいえる模擬演習で患者役を(なんで私に当たるの?ひどいと思いつつ)体験してみると、まさしく講習の成果である感じのよい臨床検査技師さんに、解りやすく検査項目の臨床的意義やデータを説明してもらおうと「ありがとう」という気持ちになりました。自分も知っていることの説明を受けただけなのに聞いてよかったと思えたのです。これはコミュニケーションの大切さを意味すると思います。それに加え、臨床検査技師が持つ知識の、おすそ分けをすることで患者さんに喜んでもらえるかもと実感できました。実施するにあたり乗り越えるべき課題はたくさんありますが、皆で協力し、手探りでより良い方法を探していきましょう。



11月16日(日) 15:10~15:40
岸 孝彦 先生

秋季拡大研修会

2014年11月23日(日)

下呂市交流会館

メインテーマ
― 貧血 ―

「貧血の捉え方」

講師 岐阜大学医学部附属病院 血液内科 科長 鶴見 寿 先生

「輸血及びその合併症」

講師 岐阜大学医学部附属病院 輸血副部長 兼村 信宏 先生

ランチオンセミナー

「多項目自動血球分析装置 XNシリーズのご紹介 ～血小板測定を中心に～」

シスメックス株式会社 名古屋支店プロダクト営業課 岡野英里子 先生

「グリフォルス輸血機器の紹介」

株式会社カイノス グリフォルス営業推進部 笹浦 明男 先生

市民公開講座

『伊能忠敬 下呂来訪200年』

講師 高山市史編纂員 田中 彰 先生



平成 26 年度秋季拡大研修会を終えて



岐阜県臨床検査技師会 副会長

地方独立行政法人 岐阜県立下呂温泉病院 諏訪浩

平成 26 年 11 月 23 日(日)に無事に秋季拡大研修会を開催できましたのは、関係各位のご協力のお陰であると心より感謝いたします。本当にお疲れ様でした。

最初に計画した日が 11 月 16 日(日)でしたが、「検査説明ができる検査技師の講習会」が決まり変更せざるを得ず、次には会場が予約一杯で 10 月を希望していたのに 11 月終盤の三連休の中日しか空いていませんでした。計画も最初から躓き、この先どうなることやらと思いながら準備を進めました。例年、寒くなる時期なので天候を心配しましたが三連休とも快晴で最高の日よりとなり 66 名の方に参加をいただきました。この原稿を書いている研修会から一週間後には、なんと雪が降っています。

研修会が下呂温泉の地で開催されるのは初めてであると思います。30 年程前、私がまだ 20 代の頃(若い頃があったのだ!)には湯屋温泉(旧益田郡小坂町)での宿泊研修会が何度かあった事を覚えています。懐かしい思い出です。今回参加の皆様には足湯程度でも温泉の効用を感じていただけたのでしょうか? 気になります。

今回の研修テーマは「貧血」でした。特別講演を 2 題

- ① 『貧血の捉え方』講師 岐阜大学医学部附属病院 血液内科 科長 鶴見 寿 先生に、座長を大垣市民病院 杉山 直久技師にお願いしました。
- ② 『輸血及びその合併症』講師 岐阜大学医学部附属病院 輸血副部長 兼村 信宏 先生に、座長を岐阜県立多治見病院 八木 良仁技師にお願いしました。

両先生とも、快く受けてくださり、事前資料も早めにいただけてとても感謝しています。

ランチオンセミナーも 2 題お願いし、『多項目自動血球分析装置 XN シリーズ』のご紹介 ~ 血小板測定を中心に、シスメックス株式会社 名古屋支店プロダクト営業課 岡野 英里子先生と『グリフォルス輸血機器の紹介』株式会社カインス グリフォルス営業推進部 笹浦明男先生にお願いしました。

弁当は飛騨の食材とお願いしましたがランチオンセミナー中ではゆっくり食べていただけなかったと思っています。

少しの休憩後、市民公開講座『伊能忠敬 下呂来訪 200 年』を講師 高山市史編纂員 田中 彰 先生にお願い致しました。歴史好きには楽しいお話でした。事前にポスターやらチラシ配布を積極的に行いましたが市民 15 名の参加に留まり少し残念でした。

計画当初は色々ありました。その後はとてもスムーズに終了までたどり着けて安堵しています。今回、実行委員を務めていただきました下呂市立金山病院 和田理事、久美愛厚生病院 山岸理事、岐阜県立下呂温泉病院 藤木技師に感謝するとともに、当日実務委員の飛騨地区技師会員の皆様にも謝意を表します。

市民公開講座
『伊能忠敬 下呂来訪 200 年』
講師 高山市史編纂員
田中 彰 先生





検体採取等に関する厚生労働省指定講習会 事前受付開始のお知らせ

日臨技ホームページに「検体採取等に関する厚生労働省指定講習会」が掲載され、事前受付が開始されましたのでお知らせいたします。受講申込方法を必ず確認の上お申込みください。

ホームページアップ日時：平成26年12月3日(水)

日臨技のホームページ、会員ページの「事前参加」からも、お申し込みが可能です。

<http://www.jamt.or.jp/training/>

臨床検査技師免許を有する方には、受講義務がありますので、必ず受講してください。

4月からは、受講していない方が検体採取を行うと違法行為となります。4月になったらすぐに違法性を問われる、ということはないと思いますが、すでに検体採取を業務とされている方は、早めの受講をお願いします。

現在検体採取を行っていない方、検査センターに勤務されるなど検体採取を行う可能性の低い方は、あわてて受講する必要はありません。この講習会は、今のところ、中部圏では名古屋で、年10回程度、今後5年間に亘って開催されると聞いています。ゆったり行きましょう！ただし、最終的には必ず受講をお願いします。

今年度中の中部圏での講習会は1月17日(土)・18日(日)(会場:名古屋市立大学)、2月14日(土)・15日(日)(会場:名古屋大学)の2回のみです。4月以降にも逐次開催され、年10回程度は開催されます。

臨床検査関連の 学会案内

第49回日本成人病(生活習慣病)学会 学術集会

開催年月日：2015.1.10(土)-11(日)
代表者：木村 理(山形大学主任教授)
会場：東京都千代田区 都市センターホテル
事務局連絡先：山形大学医学部第一外科
TEL:023-628-5336 FAX:023-628-5339
常設事務局 URL: <http://www.j-seijinbyou.gr.jp/>
開催案内 URL: <http://square.umin.ac.jp/jsad49th/>

編集後記

今年の6月に広報宣伝部を引き継ぎ半年が過ぎました年を取ると時間の経過が早くなると思いますが、実感ですね。来年は検査説明や検体採取など検査技師を取り巻く環境が大きく変わる年になりそうです。特に法改正を伴った検査技師による検体採取は今後、医療の現場に浸透していくことと思います。病院および医院に勤務されている方は早めに受講しておきましょう。それでは皆さん良いお年を!!



広報宣伝部では会員の方からの寄稿を募集しています!!
地区ごとのおすすめスポットなどありましたら岐臨技事務局までお寄せください。

発行所(一社)岐阜県臨床検査技師会

〒500-8384 岐阜市藪田南3丁目5番地10 コスタ岐阜県庁前603号
TEL 058-275-5596 FAX 058-213-0220

発行責任者 兼子 徹

編集者 諏訪 浩 森本 勝男 松浦 康博
E-mail giringi-office@giringi.jp